



# ごあいさつ

安野光雅氏は、1984年に国際アンデルセン賞、2012年に文化功労者を受章された、世界的に活躍されている画家・絵本作家・装丁家・エッセイストです。本年、馬の博物館は開館40周年を迎えました。これを記念し、安野氏の代表作のなかで、多数の馬が登場する壮大な歴史絵本『繪本 平家物語』『繪本 三國志』、そして、馬に乗った旅人がさまざまな国や地域を旅する『旅の絵本』の3シリーズから、50点の名場面（原画）を厳選した特別展「安野光雅の世界—歴史絵本に描かれた“名馬面”—」を開催することとなりました。

安野氏の故郷である島根県・津和野町立安野光雅美術館の全面的なご協力を得て実現した本展は、「馬」をテーマに安野氏の作品の魅力に迫る画期的な原画展です。歴史絵巻に描かれる武将や豪傑たちとともに活躍した馬、世界各地の人々の暮らしや風景に登場する馬など、安野光雅氏の世界を彩る“名馬面”をぜひお楽しみください。

主催者



## 『繪本 三國志』

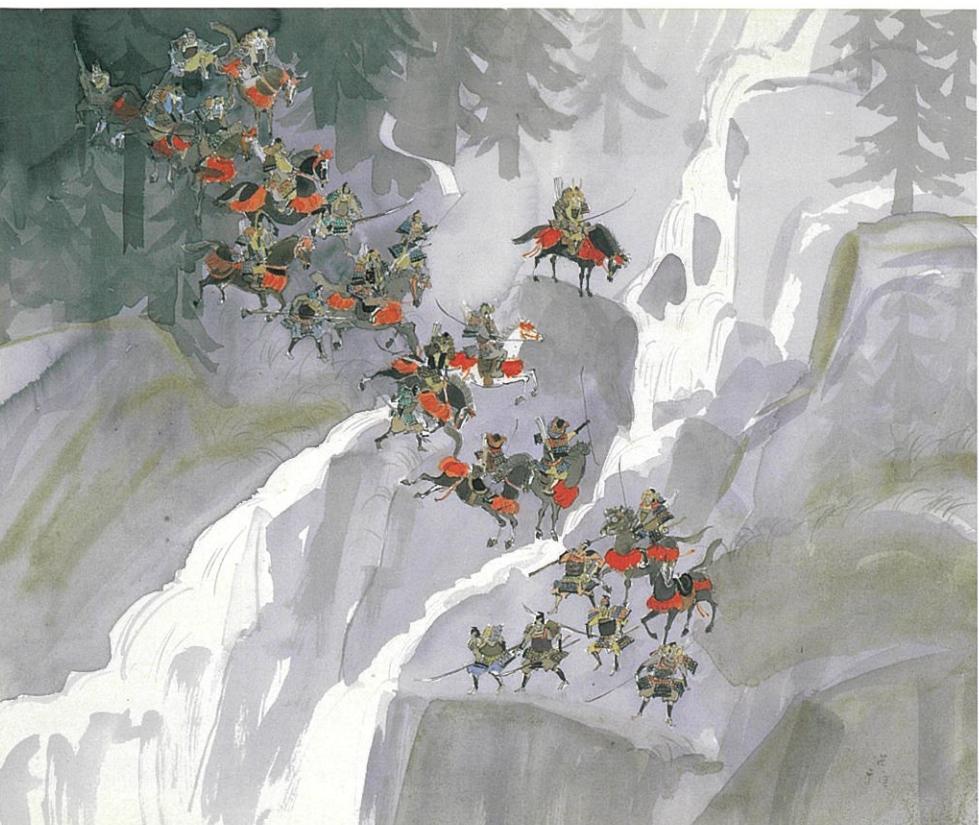
2008(平成20年) 朝日新聞出版

古代中国における、魏・呉・蜀の三国時代の歴史書「三国志」。日本に伝わった当初は武家の教養とされ、やがて絵画などの題材として用いられた。江戸時代以降庶民に広まり、今日まで小説や漫画など、さまざまなメディアで人々を魅了し続けている。

本書は、安野氏が2004年から4年間にわたる中国取材を通じて、実際に三国志の舞台を訪れ、現地での写生と構想によって制作された93作品から成る。中国製の絹本を用い、筆や墨、絵の具なども現地のもので描かれた、こだわりの一冊。



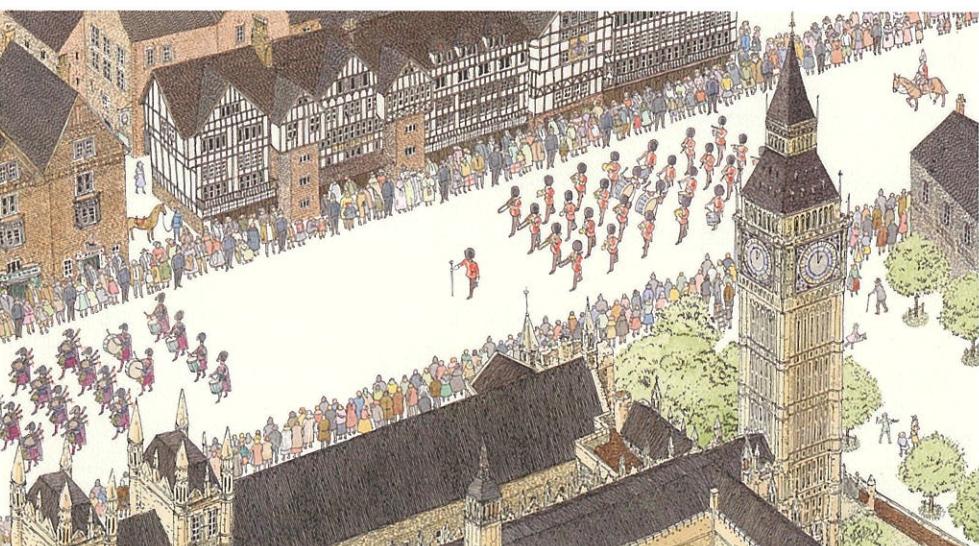
©空想工房



坂落 ©空想工房

## 国際アンデルセン賞受賞・文化功労者 安野光雅氏が描く“名馬面”

めいばめん  
“名馬面”



ビッグベン 旅の絵本III (イギリス編) ©空想工房



©安野光雅美術館

### 【安野光雅 (あんの・みつまさ)】

1926(大正15年) 島根県津和野町に生まれる。1968年、『ふしぎなえ』で絵本界にデビュー。その後、旺盛な好奇心と豊かな想像力で次々と独創性に富んだ作品や、世界各地を旅して描いた淡い色調の優しい雰囲気漂う風景画を発表。また、科学や数学、文学などにも造詣が深く、その著書も多い。国際アンデルセン賞、紫綬褒章、菊池寛賞など、国内外で数々の賞を受賞。2001年、故郷に安野光雅美術館が開館。2012年には文化功労者に選出された。代表作に『ふしぎなえ』『ABCの本』『天動説の絵本』『旅の絵本』シリーズ(福音館書店)、『繪本 平家物語』(講談社)、『繪本 三國志』『御所の花』(朝日新聞出版)、司馬遼太郎の紀行『街道をゆく』の装画など。

## たび えほん 『旅の絵本』シリーズ

1977(昭和52年) 福音館書店

馬に乗った一人の旅人が、町や村、そして海を渡りさまざまな国や地域を旅する文字のない絵本シリーズ。自然の風景や人々の暮らしが丁寧に描かれ、各地の歴史や文化などを垣間見ることができる。また、著名な物語のワンシーンが随所に盛り込まれるなど、安野氏の遊び心も満載となっている。

1977年の中部ヨーロッパ編以降、イタリア編(1978年)、イギリス編(1981年)、アメリカ編(1983年)、スペイン編(2003年)、デンマーク編(2004年)、中国編(2009年)、日本編(2013年)の8作品が発行されている。